

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Adverse pregnancy and perinatal outcome in patients with recurrent pregnancy loss: Multiple imputation analyses with propensity score adjustment applied to a large-scale birth cohort of the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 不育症患者の妊娠帰結～エコチル調査10万人バースコホート

ユニットセンター(UC)等名: 愛知UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: American Journal of Reproductive Immunology

年: 2018 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 杉浦(小笠原)真弓

所属UC名: 愛知UC

目的:

流産を繰り返す不育症では、早産、前期破水、低出生体重児が増加することが報告されているが、大規模出産コホートは少なく、多重解析による研究もおこなわれていない。不育症患者と流産歴のない患者とを比較して、異常妊娠が増加するかを調べることを目的とする。

方法:

エコチル104,102データを用いて、既往流・死産回数が増加するに従って流産、死産、早産、前期破水、前置胎盤、羊水過少症、胎盤早期剥離、癒着胎盤、妊娠高血圧症候群、子宮内感染、帝王切開、子宮内胎児発育遅延、低出生体重児、男児、新生児仮死、先天異常、染色体異常が増加するかを調べた。多重代入法を用いて解析を行った。

結果:

不育症患者において児の染色体異常、先天異常、新生児仮死の頻度は増加しなかった。癒着胎盤、子宮内感染が増加することが初めて明らかになった。死産、軽度・重度妊娠高血圧症候群、帝王切開率が増加することが明らかになった。不育症患者において男児の割合が減少することが明らかになった。

考察:(研究の限界を含める)

人工妊娠中絶術の回数によっても癒着胎盤が増加したため、不育症患者において癒着胎盤が増加した理由は子宮内容除去術の影響と考えられた。既報告と同様に、死産、軽度・重度妊娠高血圧症候群、帝王切開率が増加することが明らかになったが、早産は有意に増加しなかった。10万人でも症例数が不足したためかもしれない。エコチル調査ではリクルートが妊娠14週と、初期流産の時期を過ぎていたため、流産のリスクは正確に評価できなかった点が研究の限界である。

結論:

流産、死産を繰り返しても児の先天異常、染色体異常のリスクは増加しなかった。癒着胎盤のリスクが少し増加することが明らかとなった。